

も く じ

◇トラブルを子どもと一緒に
振り返る工夫 …… 1

◇教師力向上研修

◇信州型コミュニティスクール
推進セミナーを開催しました
…… 2

◇北信地区人権教育研修会を
開催しました …… 3

◇「キラッ☆と輝く 子どもの
先生の 笑顔」

◇家庭学習の充実を考える①
夏休みの家庭学習を見直して
みませんか? …… 4

振り返りが言葉のやり取りだけになると、記憶にも残りづらく、きつい口調で指導されれば、その刺激の強さだけが頭に残り、指導の内容はその子に伝わらなくなります。

何人かの子どもに、別々に話を聞いていくと、つじつまが合わないこともあります。話の整合性をとるためにも有効です。

よし、次困ったら
まず先生に話そう



ポイント

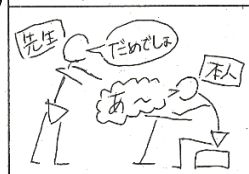
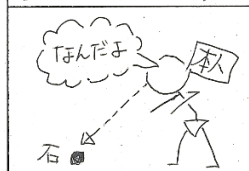
トラブルが重なる場合は、一回の指導でベストな解決に至ることは容易ではありません。そんなとき、まず、ベターな行動を子どもと一緒に考え、次の行動に導くことを意識してみませんか？ 自分の行動を振り返る。それは、自己解決力向上の第一歩です。

トラブルを子どもと一緒に振り返る工夫

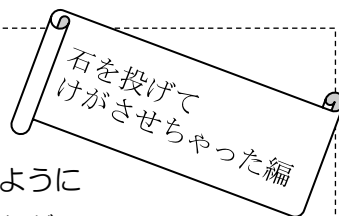
～ 子ども自身の自己理解を深め、子ども同士・先生をつなぐ ～

夏休み直前。子どもたちは、どこか“ソワソワ”したり“落ち着かなかったり”しているかもしれません。そんなとき、子どもたちのトラブルはいつも以上に増えることがあります。トラブルが発生した際、それを解決し、気持ちよく夏休みに入れるような、ちょっとした振り返りの工夫を紹介します。（もちろん、2学期以降にも活用できます）

小学校低学年や 場面を想起しにくい子ども向け



- * 4コマまんがのように
- * 台詞を書き込みながら
- * 棒人間等で簡単に
- * コマを書き加えながら「次はこうするといいよね」と一緒に考えましょう。



小学校高学年や より良い行動を一緒に考えたい子ども向け

仲間に入れてもらえない

なんでだ! この～!

石を投げ、ぶつけた

けがをさせ怒られる

*フローチャート
式で、流れが分
かるように。

ベターな対応

先生に「〇君が入れてくれない」と言う

これらの【振り返りのいいところ】は・・・

- ①：時系列をハッキリさせることができる
 - ②：視覚的に残るので、子どもの中で具体的な行動を意識しやすい
 - ③：紙ベースの記録になり、後々、振り返りの再活用ができる
- など

教師力向上研修

初任者と5年経験者が、互いに実践を持ち寄り、学び合う研修です。

頼もしい後輩



○自分がどんなことを大事にしたいのか、できていること、できていないことについて気付くことができました。子どもの中に「問い」が生まれる授業をしたいと思いました。（初任者）

○5年目の先生方が、私たちの不安に共感され、いろいろな視点からアドバイスをしてくれました。悩みは尽きないですが、「明日からやってみよう」という活力が湧いてきました。（初任者）

心強く頼りになる先輩が、どの職場にもおられると思います。困ったことがあるときには、先輩に相談をしてから実践すると、安心して挑戦することができますね。

○慣れた時ほど、自分のあり方を見つめ返さなければならないと感じました。初任の先生は、「子どもの目線に立つこと」を大事に授業されていました。自分はどうかとハッとさせられました。（5年経験者）

○初任の先生は、細かく丁寧に教材研究をしていました。子どもに主体的な姿を求めるなら、教師自身も、自ら学び続ける姿であることが大事であると気付かされました。（5年経験者）



憧れの先輩

5年目の先生方も、初任の先生方のお話を聞くことで、教師を志した時の気持ちを思い出したようです。「初心忘るべからず」という気持ちで、子どもと向き合いたいですね。

信州型コミュニティスクール推進セミナーを開催しました

県内各地の学校で「地域とともにある学校づくり」の取組が進められています。北信地区でも、それぞれの学校で地域の特色や地域とのつながりを生かした多様な取組が行われています。

信州型コミュニティスクールのさらなる充実に向けて、長野・中野・千曲の3会場で信州型コミュニティスクール推進セミナーが開催されました。

コミュニティスクール（CS）に関わる、教職員・社会教育委員・コーディネーター・ボランティアなどさまざまな立場の方が集まり、活発な情報交換が行われました。



【参加された皆さんの声】

- ・いろいろな立場の方からの意見をお聞きすることができ、やる気がでてきました。皆さんと会話することそのものが、CSの基本ではないかと思いました。
- ・他校の様子、公民館の館長さん、教育委員会の方々の考え方を知り、勉強になりました。

北信地区人権教育研修会を開催しました

7月9日(火)、飯綱町民会館において「令和元年度北信地区人権教育研修会」を開催しました。

講演会「みんな違って、みんないい～性の多様性について考える～」

「ダイバーシティ信州」に所属し活躍している二人を講師にむかえ、「性の多様性」について考える講演会を行いました。

「ダイバーシティ信州」は、さまざまな「違い」を尊重して受け入れ、多様な人が生きやすい世の中を実現していくための活動を行っている長野県内の団体です。

講演会では、性的少数者（いわゆるLGBT）の方々の生きにくさや性的少数者の方への対応の仕方について学ぶことができました。

生きにくさについては、まだ社会は異性愛中心主義であり、性別二元論があたり前であることにより、自分のマイノリティ性がばれないように隠さざるを得ない（クローゼット）つらさがあるそうです。また、何気ない一言が当事者の方にとって傷つくことがあるそうです。私たちは、言葉を発する時、この言葉は、傷つく人がいるかもしれないという想像力を働かせることが大切だと教えていただきました。

これからの対応としては、性別による色分けやグループ分け、名前の呼び方（君、さん）、公共の場において本名で呼ばないなどの配慮の必要性を教えていただきました。

講演を通して印象に残ったのは、「（性的少数者について）肯定的に関わってくれる大人の存在」という言葉です。きっと学校には、生きにくさを感じながら生活を送っている子どもたちがいるはずで。私たち教師が、肯定的に関わることで性的少数者の子どもたちが安心して生活できる学校となっていくのではないのでしょうか。

「みんな違って、みんないい」そんな学校をつくっていく必要性を改めて感じる講演会でした。



【参加者の感想から】

- 性的マイノリティの方々がどのような気持ちで思春期を過ごし、どのような生きにくさを抱いて現在を生活しているのかが当事者の方の言葉としてよく理解できました。
- 『決めつけない』『想像力を働かせる』『自分の中の多様性』という言葉が心に響きました。この講演会に来なければ気づけないことがいっぱいありました。
- 知らないが故に発してしまった言葉が当事者にとっては傷つく言葉であって、深くつきささるというお話が心に残りました。知ること、知ろうとすること、そして気遣いをしていけるようになりたいです。
- 学校の中で性のなやみをもった子どもに会ったことはありませんが、学校内には、このような子どもへの配慮に欠けた面や押しつけが多くあると思います。多様な方々がいるということを忘れないで子どもに接していきたいです。

<分科会> ※午後に行われた分科会の内容と発表者

- | | |
|----------------------|--|
| ①学校における人権同和教育の取組 | 須坂市立森上小学校 教諭 野田久美子さん |
| ②企業におけるダイバーシティの取組 | 春蘭の宿 さかえや 代表取締役 湯本晴彦さん
スタッフ 梅澤有里さん
スタッフ 小林未来さん |
| ③女性の人権の取組 | 参画コラボの会@信州 代表 気賀沢葉子さん |
| ④外国人の人権 | 長野県国際課 国際交流員 メーガン・ダングさん
長野県国際課 国際交流員 李妮さん
長野県国際課 国際交流員 呉錫英さん
長野県国際課 国際交流係 横山紗央里さん |
| ⑤ワークショップ『語り合い気づこう人権』 | 東信教育事務所生涯学習課指導主事 園部勇一郎さん |

「キラッ☆と輝く 子どもの先生の笑顔」 vol.1

学校訪問で出会った「笑顔」を
コラム風に紹介します

A 小学校の二年生国語より
「お手紙」に出てくるがまくん
とかえるくんの姿を通して「親
友」を解釈するK君。友だちの名
前を挙げながら「親友」を解釈す
るK君をA先生はあたたかなまな
ざしで包み込んでいく。

「親愛なるがまくん。ぼくは、きみがぼくの親友であるこ
とを、うれしく思っています。き
みの親友、かえる」作品「お手紙」
にある心温まる一節である◆教
科書には、がまくんとかえるくん
が肩を並べてお手紙を待ってい
る挿絵がある。がまくんとかえる
くんはいったいどんな会話をし
ているのだろうか。子どもたち
は、二人の気持ちを考え始めた
◆A先生が大きくゆったりと音
読した。「親愛なるがまくん。き
ん。ぼくは、きみがぼくの友だち
であることを、うれしく思ってい
ます。きみの友だち、かえる」
◆「ん？」子どもたちが反応する。
「（親友と）変わらないけど、え
なんか…」がまくんがかわいそ
うだよーいろいろなつぶやきが
教室中から聞こえる。「なんかち
よつと」K君もつぶやく。「友だち
だと気持ちはどうちがうのか
な？」A先生が問いかけた。「親友
は、ずっと友だちだけけど、友だち
は、あんまり遊んでないような感
じがする」とSさんが答える。続
けてK君が答える。「親友だとあ
いぼう感があるけど、友だちだと
知り合いという感じ」この発言に
周りの子がK君を見つめる。◆

K君にとっての「相棒」とは何な
のだろうか。なぜK君は「親友」
を「相棒感」としたのだろうか。
A先生は優しくK君に問い返し
た。「あいぼうってどんな人？」
「Yくんとかくん」なんと微笑ま
しい答えなのだろうか。K君は自分
にとつての「親友」の名を答えた
◆授業は、がまくんの会話につい
て考える場面になる。「とてもい
いお手紙だ」の「とても」がある
と無いのでは、かえるくんの気持
ちはどう違うのか。K君が挙手
をした。「とてもがある」とあいば
う感がさらにわいて、またお手紙を
書きたいって思う」続けて「ずー
っと一緒にいたいって思う」と発
言した。ここでA先生のあたたか
なまなざしが注がれる。「お、と
てもがあるだけで、一緒にいたい
って気持ちになるんだね」うなず
くK君。「Yさん、Tさん、どう？
しあわせ？ずーっと一緒にいた
いって思うんだって」照れなが
らうなずくY君とT君。三人は目
を合わせ微笑んだ。やり取りを見
ていた周囲も微笑み、教室全体が笑
顔になり三人の気持ちを全員で
共有した◆がまくんとかえるく
んの関係を、K君は「親友」とい
う言葉をよりどころに、自身の生
活経験と重ねて考えている。そし
て、がまくんとかえるくんの気持
ちに迫った。「ずーっといっしょ
にいたい」と。その子の考えの理
由には、その子の背景、たとえば
生活経験が現れる。A先生はそれ
をあたたく認めた。

【このエピソードから大事に考えたいこと】

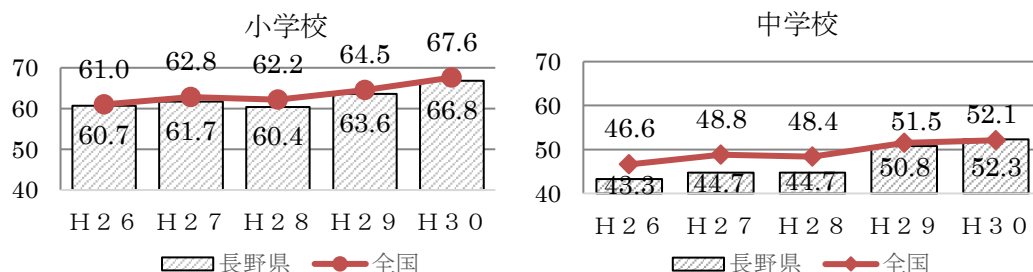
○文学的文章の解釈を行っている、子どもは様々なことを想像し発言します。その一つ一つの発言の背景を考えてみましょう。その子らしい学びが見えてくると思います。

家庭学習の充実を考える①

夏休みの家庭学習を見直してみませんか？

新しい小学校（中学校）学習指導要領総則「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」において、「児童（生徒）が自ら学習課題や学習活動を選択する機会を設けるなど、児童（生徒）の興味・関心を生かした自主的、自発的な学習が促されるよう工夫すること」が示されました。

また、全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙の中の「家で、計画を立てて勉強していますか」について、長野県の子どもの肯定的な回答の割合は年々高まっています。



平成30年度「夏休み期間のあり方検討委員会」では、夏休みが子どもたちの主体的、自律的な学びの場となるよう、例えば、一斉一律の宿題を見直すことを提案しています。

これから始まる夏休みの家庭学習も一斉一律の家庭学習を見直すチャンスです。各自の課題に合わせて自分で計画して取り組める家庭学習となるよう、教科会や学年会、職員会議等で検討を進めましょう。